

2026 年度「マレーシア ボルネオ島 短期派遣プログラム報告書」

農学部 生物資源開発学科 2 年 岩木梢

1. 当初の目的

日本と全く異なる熱帯雨林の景観を体験し、そこに生息する生物を実際に見る。

2. 目的達成のために現地で活動した内容

熱帯雨林を体験するという目的は、自分が特別な行動をしなくても今回のツアーに参加するだけ、連れて行ってもらっただけで達成できてしまうものだった。大切なことは目的を達成するために自分で何かを別の行動をするというよりも、全員で行う活動の中でいかに多くのことを受け取って、どれだけ自分が感動できるかだと思う。

そこで私が意識したことは、1 日の活動の前や活動中に自分の当初の目的を振り返り、自分が今それを達成している真最中であることを意識し続けることだ。「ここがずっと来たかった場所だ、自分は今熱帯雨林にいるんだ」とたくさん心の中で呟いて、自分の夢が叶っていることを実感する。何事にも楽しむ気持ちをもって挑戦し、活動の何気ない時間もただ過ぎ去るものにするのではなく、そこから自分ができるだけ多くのことを受け取る努力をした。

また、憧れのボルネオ島に来たからには可能な限り現地を感じたいと思い、自由参加になった活動にも積極的に参加したり、現地の食材にチャレンジしたり、体調を優先しながらも空き時間にも部屋の外で生き物の観察や散策をした。

3. 目標達成度の自己評価

熱帯雨林の自然を体験するという目標は達成することができた。樹木のサイズや森林の密度に圧倒され、カラフルな鳥たちやオランウータンなど、憧れの野生動物が自然の中で見られていることに心からの感動を覚えた。

当初の目的以外にも想像以上に多くの経験を得ることができた。そのうちの一つは、保護センターや現地大学で野生動物の保護に関わる方々のお話を聞いたことだ。マレーグマやセンザンコウ、オオコウモリの生態や、野生動物が直面する厳しい状況を研究者本人の言葉で聞いたのはとても貴重な体験だったと感じている。野生動物を守るためには人とのつながりが必要不可欠であること、私たちにできることは案外手軽で身近なこともたくさんあること、研究者にとって大切なマインドなど、多くのことを学ぶことができた。

また、見渡す限りのアブラヤシプランテーションを目にしたときには、現地で体験した美しい自然が人の手によって失われていることによるショックと、自分はきっとこれからもパーム油に頼って生きていくのだらうという現実とのジレンマを感じた。

さらに、ツアー参加以前は熱帯雨林に行くことにしか目を向けていなかったが、比較的発展した都市のコタキナバルに滞在する時間も長く、マレーシアの文化についても知ることができた。食事や民族舞踊からその国の文化を体験し、ガイドさんや現地の方との出会いを通してマレーシア人の明るい国民性も知ることができた。

4. 今後の取り組み

先述の通り、研究者の方々のお話から生き物を守るために自分にできることはたくさんあると分かったので、今後は今回私が学んだことを人に伝えたり、保護団体のSNSを拡散したり、小さなことからでも実際に行動していきたい。そして研究者の方々のお話だけではなく、一面のプランテーションの景色から感じた複雑な感情に対して、自分にできることは何か、世界はどう変わっていくべきなのか、考え続けたいと思う。

今回のツアーを今後も振り返れるように、現地で見たものや感じたことをまとめる。そして、ツアーをきっかけにより興味を持つようになったサイチョウやビンロングなどについてより知識を深めたい。

5. その他

(ア)持っていて良かったもの

- 双眼鏡、カメラ

双眼鏡は鳥類など、遠くの生き物を見るのに必須だった。また、カメラでの撮影に適したものと、スマホでの撮影に適したものは違うので、うまく使い分ける必要がある。今回のツアーを通して、双眼鏡とカメラをより使いこなせるようになったと思う。

- 洗濯セット（物干しロープ、洗濯ばさみ、ハンガー、小分け洗剤）

たくさん汗をかくので着替え、特にアンダーウェアを余分に持っていくか、手洗いで洗濯し使いまわすのが良い。物干しロープ、洗濯ばさみはホテルの部屋が狭い時に、折り畳み傘を乾かすのにも使用した。

- 水に流せるティッシュ

ホテル、空港以外の場所ではトイレットペーパーがないトイレも多い。

- アームカバー

虫刺されと日焼け対策として毎日使用した。長袖は暑くて着られない。

- ライト

熱帯雨林のナイトウォーク、洞窟の見学時に使用した。ヘッドライトを持っていたが、私は使い慣れていなかったのも初心者には明るめの手持ちライトが使いやすいのではないかと思った。

- 虫取りセット（虫取り網、捕獲した虫を入れられる観察用の透明な箱）

- 扇子

(イ)用意したがいらなかったもの

- エコバック

買い物の際はほぼ全ての店で袋に入れてもらえるので使用しなかった。

- スマホストラップ

結局ウエストポーチに貴重品をまとめて入れておくのが便利だった。ただスマホに限らず、落下防止のヒモは付けておく安全。

- レインコート

上下セパレートのレインコートを用意したが、強い雨が突然降ってくるので着る余裕がなかった。荷物も覆えるポンチョや折り畳み傘は便利だと思う。

(ウ)現地で使用したお小遣いの金額

2 万円を RM450 に両替

- 食料品 RM80
- お土産の小物類 RM175
- 服 RM80
- 本 RM85
- 現地でのおやつ、水 RM20

6. 次年度以降の参加者へ

(ア) 事前に準備した方がよいこと

- 活動に万全で挑むための健康、体力づくり
約 1 週間という短期間で多くの活動をするため、夜は遅く、朝が早くなる日も多かった。現地での体調管理はもちろん、多忙なスケジュールを楽しめる体を事前に作っていくことが大切だと感じた。
- 現地でやりたいことのリストアップ
見たい生き物や食べたい料理、買いたいお土産など、頭で記憶しておくだけでは現地で様々な活動をする中できっと忘れてしまう。帰ってから後悔しないためにもメモしておくことをおすすめする。

(イ) 勉強しておくべきこと

- 英語
現地の方とのコミュニケーションはほとんど英語で行った。講義への質問も英語で行うので、頭に浮かんだ質問を日本語から英語にする時間を短縮できるようになっていると良いと思う。ただ、マレー語についても数字や挨拶だけでも覚えておくと良いと思う。現地の人に喜んでもらえるし、自分が聞き取れるとうれしい。今回は事前にマレーシア出身の学生にマレー語を教えてもらう時間をとったが、とても有意義な時間だったと感じている。
- 現地の生き物について
事前に勉強会を行い、参加者で分担して生き物を調べ共有する時間をとった。テスト直前で回数がとれなかったのが残念だったが、少しでも事前に調べておくことが本物を見た時の感動につながるし、生き物を見つけようという意欲がより強くなると思う。
- マレーシアの文化（食文化、民族、宗教など）



図 1.板根が発達した巨木@RDC



図 2.一面に広がるアブラヤシプランテーション



図 3.ドリアンにもチャレンジ！@ナバルマーケット



図 4.サイチョウ@RDC 早朝散歩



図 5.ビントロング@ロッカウイ動物園